

東京桑野会から会費納入・特別寄付金のお願

安積OB・OGの皆様 陽春の候いかがお過ごし  
ですか。ここに東京桑野会会報第45号を

お届けします。さて、当会報は昭和53年に初号が  
発行されて以来 今日まで順調に号を重ねて

会員諸氏の親睦・意見交換の場として有意義な  
役割も果たしてきました。ところで、現在、会報発行

についてその継続的・安定的発行が危ぶまれる  
状況に直面していることを申し上げなければなり

ません。即ち数年来、会報発行の収支バランスが

崩れ赤字に転化してきます。その要因として

当会の会費納入率が終年低下し昨年には  
納入率が対前年22パーセント減と大幅に

低下しました。これはこの3年来未曾有の  
コロナ禍に見舞われたことも背景にあります

が、一時的な変化にとどまるという保証はありません。  
今や会報の継続的発行に赤信号が点滅

している事態と私は認識しています。

申すまでもなく組織体にとって会報の存在は

重要な価値も有しており東京桑野会にとっても

会報発行の意義は会員の親睦・交流を深める

自由な言論空間として また会員のタテ・ヨコを  
つなぐネットワークの紐帯として かけがえのない

存在と考えます。そこで会報発行の危機的な  
状況も突破し その発行継続を安定的軌道に

乗せるために会費納入に対する倍目のご理解と  
ご支援も要請しますとともに、この機会に特別の

ご寄付をお願い申し上げます。

寄付金の目安は「1口2000円」で「1口以上幾口でも

結構です。東京桑野会会報次号に「寄付者芳名」と

掲載させていただきます。なお会費納入用とは別に  
寄付金専用の振込用紙を同封いたしました。

小生が安福に在学した昭和30年代の中頃 母校は緑  
濃き田園地帯の中にもあり周囲のそこここには桑畑が

茂っていました。1滴の雨粒がまとまると桑の葉の茂りを  
支え日照りの年は旱天の慈悲雨となつて桑の葉の

生命も維持しました。私は会費とは桑の葉の生育に欠か  
せない珠玉の雨粒のようなものと思えてなりません。

以上会報発行にかかる問題とこれに対する私からの要  
請について申し述べました。会員各位のご理解ご協力の  
ほど切にお願い申し上げます。

2023.4.1 東京桑野会会長

浅川章